

辺野古土砂北九州

発行…2023年12月号・No.47



沖縄県那覇市の奥武山(おうのやま)公園で開催された、「11.23 県民平和大会」には、1万人が参加。200万円のカンパも会場で集まりました。また、キッチンカーや参加者の思いが書かれたスイミーを集めて作られた、巨大お魚アートなど、若者の思いも生かされた集会となりました。(写真はニュース番組から転載)

《目次》

- 【沖縄】11.23 県民平和大会に参加して(八記久美子)…………… 2 ページ
- 【辺野古新基地建設】阻止しなければ命も自然も守れない(末浪靖司)…… 7 ページ
- 【連続エッセイ】「戦没者名名簿」を読む:番外編(浦島悦子)…………… 10 ページ
- 【その他】声・インフォメーション・日程…………… 11 ページ

写真提供…各種ネット・末浪靖司・八記久美子



発行 「辺野古土砂ストップ北九州」

島を再び戦場にさせないと1万人集会

新しい息吹感じる「11.23 県民平和大会」に参加して

辺野古土砂ストップ北九州 世話人 八記久美子

11月10日～20日、自衛隊員3万人・米軍1万人が参加して、自衛隊統合演習が行われました。福岡県の築城基地から飛び立った戦闘機4機が、民間の岡山空港に降り立ち給油訓練等を行うとともに、本州の5つの原発施設では、自衛隊員とともに防護訓練が行われるなど、今、戦争の準備は日本中に広がっています。

私は、これまで溜まっていたモヤモヤした気分を吹き飛ばそうと、沖縄での県民平和大会に参加しました。集会の持つエネルギーを貰うとともに、前泊博盛沖縄国際大学教授の基調報告に心がすっきりしました。※後で内容を紹介しています。



上…挨拶をしているのは玉城デニー知事。改めて、知事と県民との距離の近さを実感しました。

下…会場の様子。姿は見えませんが、奥に見える木々の下にも参加者がいっぱいいました。



来賓挨拶をした玉城デニー知事は「なぜ日本政府は、沖縄の不条理に正面から向き合おうとしないのか。その不条理が存在する限り、私たち県民はこれからも絶対にひるむことなく行動し、平和のため声を上げ続けていこう。みんなが一緒であれば、必ずその頑張る気持ちが一つにつながる」と、呼びかけました。

集会はその他、石垣島で沖縄戦を体験した 93 才の山根安行さんや若者をはじめ、たくさんの方が挨拶をしました。

また私は、あの広い会場で沖縄・愛媛・山口から参加した土砂全協の仲間とも再会でき、出会いを喜び合う事ができました。



共同代表の瑞慶覧長敏さん



集会の前には 2 時間のコンサートがあり、沖縄の歌やエイサーの踊りも楽しむことができました。



上下…最後はみんなで「がんばろー」を三唱



閉会挨拶をする共同代表の具志堅隆松さん



凛としてシンプルで穏やかな前泊博盛氏(沖縄国際大学教授)の基調報告 軍事に頼らない平和を、国民が一緒につくろう



基調報告をする前泊博盛氏

どの発言も大切な内容でしたが、特に前泊博盛氏の基調報告は、聞く人に勇気を与える、素晴らしい基調報告だったと私は思いました。途中を省略していますが、その内容を紹介します。

■中国の記者「なぜ日本が騒いでいるのかわからない」と

実は昨日、中国から新華社通信の記者が取材に来ていた。そのさい、私から彼らに質問した。「中国で台湾有事は議論になっているのか?」と。「そんなことはない。なぜ日本が騒いでいるのかよくわからない」という話だった。では誰が「台湾有事」を仕掛け、そして今沖縄・南西諸島に、これだけの軍備を強化しようとしているのか。

■軍拡はここから始まった

「台湾有事は日本有事」と発言した元首相がいた。際限のない軍拡はここから始まっている。先述の新華社通信の記者には、「中国の政権や代表者に聞いてほしい。もし沖縄が戦場になるとするなら、それはなぜか。何があるから沖縄と南西諸島が戦場になるのか? もし米軍基地や自衛隊基地があるから、有事に沖縄を攻めるといふのなら、われわれはその基地の撤去に動く。それが私たちの命を守る術だといふのなら、県民はそういう行動をとることを選択するかもしれない」という話もした。

■琉球は日本にとって消耗品だと

アメリカの歴史政治学者 G・H・カーは、「琉球は日本にとってエクスペンダブルだ」と書いた。「消耗品」という意味だ。「だが日本は、琉球のために犠牲になることは好まない」—これが、アメリカの日本と琉球の関係性についての認識だ。このような分断によって、日本のなかで琉球は犠牲にされ、そして今ふたたび日本が戦場となることを避けるための材料として使われていないか。

■台湾有事…言い出したのは米軍人

台湾有事を誰が言い始めたのかを遡って考えてほしい。最初に発言したのは米軍人(前米インド太平洋軍司令官フィリップ・デービッドソン)だ。「6年以内に中国が台湾を軍事侵攻する可能性がある」。この言葉を受けて、ペロシ米下院議長が台湾を訪問し

た。こういう動きのなかで、なぜか台湾有事が起きることが当たり前のような印象を持たされてしまっている。

■戦争に近いような印象操作が

そして今メディアがやっているのが、台湾有事、沖縄有事をまるで期待するような報道だ。「平和も民主主義もメディアから腐る」といわれる。われわれは自分たちがしっかりとしたメディアを持っているかを検証する必要がある。今テレビを見れば、防衛研究所の人たちだけが出る。「リベラルは有事に弱い」という厳しい言葉もあるが、平和や外交を語る人たちはメディアから駆逐され、軍事を語る人たちがメディアの中心に座っている。日々それを聞かされるたびに戦争に近いような印象操作をされてしまっている。こういう圧力をはねのけなければならない。

■きちんとした政治家を選ぶ…これが解決策だ

この集会も、実は沖縄が戦場になっている証拠だ。全国の皆さんが連動して声を上げてくれているが、われわれにとって必要なものはなにかということは、すでに登壇者のみなさんが語ってくれた。

きちんとした政治家を選ぼう—これが、韓国、中国、台湾の代表たちと議論したときに出てきた解決策だ。ちゃんとした政治家さえ選べば、こんなことにはならなかったはずだと。

《途中略称》

■『権不(こんぷ)10年』という言葉

「中国脅威論」というのがある。みなさんは中国にどんなイメージを持っているだろうか。これも昨日、新華社通信の記者から中国のイメージについて問われ、私は「習近平体制になって、残念ながら沖縄の人たちの中国に対するイメージは大きく変わっている。『権不(こんぷ)10年』という言葉があるが、1人の人間が



11月とはいえ沖縄は暑く、舞台裏の木陰から登壇者の挨拶を聞く人たちもいっぱいいました。私も集会の間中ここにいました。

長期政権を担う危険性は、ロシアのプーチン大統領をみても、日本の安倍晋三政権をみてもわかる。ルールを変えてまで長期政権になれば横柄になる」と伝えた。

■「戦争は政治家が始めて軍人が死ぬ」

また、米海兵隊の司令官たちとも議論した。「戦争がしたくて軍隊に入ったんですか？」「戦争が好きですか？」という学生たちの問いに対して司令官の答えは「戦争は政治家が始めて軍人が死ぬ。最初に死ぬわれわれが戦争を求めるわけがないでしょう。死にたくありません」だった。

「戦争は年寄りが決めて若者が死ぬ」ともいわれる。だから今日は若い人たちが動き出しているのだ。自分たちの運命を年寄りに委ねるな。自分たちの未来は自分たちの手で奪いとる。そんな時代に来ている。沖縄県内では、若い市町村議員たちがチームをつくって動き出している。全国の人たちに呼びかける。若い人たちが今こそ立ち上がって。

そういう戦争のない新しい時代を若い人たちに託し、育て、われわれ年寄りも一緒に立ち上がっていこう。

■平和と民主主義はみずから奪いとるもの

ファクト(事実)とエビデンス(証拠)によって、フェイク(虚偽)に騙されない行動をとろう。人を殺すな、人に殺されるな。平和と民主主義は与えられるものではなく、みずから奪いとるものだ。これは沖縄戦で学んだ沖縄の教訓だ。沖縄戦で沖縄はもう十分に犠牲になった。78年間、国土面積の0.6%に、在日米軍基地の70%を背負ってきた。日本が日米安保が必要というのなら、沖縄に頼らずに自分で立て。

そしてこれからは、軍事に頼らない平和を、安全保障を、この国の国民で一緒につくって行ってほしい。



●終わりに…つくられた「台湾有事」に乗せられて踊る岸田首相。国民は暮らしを守るための税金を軍事費に回され、偶発的なトラブルで、いつ戦争に巻き込まれるかもしれない状態に置かれています。

時々、こんな社会しか孫に残せないのかと情けなくなりますが、沖縄に行くと、全国の仲間からエネルギーをもらって、少し元気になることができます。

最近見た映画「旅するローマ教皇」でフランシスコ教皇が言っていました。「すべての戦争は常に不正から生まれます。それが戦争の仕組みだからです」と。

ひょっとして、岸田首相は乗せられた振りをして「台湾有事」と騒ぎ、意図的に軍事費をつきこんでいるのでしょうか。アメリカの横暴と大企業のなりふり構わぬ儲け主義に、孫の未来を潰されてはならないと思う、沖縄での数日でした。(やつきくみこ)

国民的批判で政府を包囲し、辺野古新基地建設を撤回させよう 阻止しなければ命も自然も守れない

アメリカとの密約(1959年)に、今も縛られている最高裁

末浪靖司（日本平和委員会常任理事）

■本稿で伝えたいこと

私は本誌 2021 年 3 月号で、沖縄県辺野古に米軍基地が造られれば、そこには自衛隊の水陸機動団が常駐し、米軍の海兵隊と一緒に海外の戦場で戦うことになる、基地建設の危険性を指摘しました。

いま岸田内閣は建設強行を狙っていますが、2 度にわたり有権者の圧倒的支持を得て当選した玉城デニー知事を先頭に、基地建設に反対する沖縄県民の意志は固く、新基地建設のめどはたっていません。それにもかかわらず、土砂埋め立てに反対する沖縄県の訴えを、最高裁判所がこの 11 月に退けたことをうけて、政府は新基地建設が既定の事実であるように描いて、大浦湾の埋め立てを強行する構えを強めています。

そこで、基地建設を阻止する展望とともに、根本に立ち返って、辺野古の美しい海を破壊して米軍基地を作るのはどういうことなのか、それは国民に何をもたらすかという問題について考えたいと思います。

■埋め立ての権限を持っているのは沖縄県

政府は、最高裁判決をうけて「代執行」などと言い出しました。大手マスコミも「沖縄県が最高裁に従わずに拒否し続けているのは問題だ」(読売新聞 11 月 17 日)などと、政府の後押しをしています。



沖縄市の民家上空を飛ぶオスプレイ CV22



筆者の末浪靖司さん

しかし、海面を埋め立てる権限をもっているのは、それが所在する地方の自治体です。地方自治法は、住民の身近な行政はできる限り地方公共団体にゆだねることを基本とすると定めています。もし辺野古の美しい海が埋め立てられれば、大浦湾の自然環境や平穏な暮らしが破壊され、名護市をはじめ沖縄県の住民に重大な被害がも

たらされます。

それだけでなく、今でも軍用機の爆音の被害や墜落の恐怖にさらされている沖縄県民に、いっそう大きな負担を強いることになります。

米軍が日本の国土を基地にして戦争する訓練をしていることが、いかに危険なことであるかは、岩国基地から嘉手納基地に向かったオスプレイ CV22 が、11月29日に屋久島沖で墜落したことで改めて明らかになりました。私たち国民が、辺野古基地建設に反対し沖縄県民のたたかいを支援することが、差し迫って求められています。

■伊達判決に驚いたアメリカ政府が

最高裁が沖縄県知事の権限を取り上げるような判決を出したのは、いったいなぜでしょうか。

米軍基地の問題では、最高裁はすでに米国政府の言いなりになって、憲法にもとづく判決ができないようになってきました。最近では下級審も最高裁におもねり、辺野古をはじめ米軍基地の問題で、国民の意思に沿って判断することができなくなっています。

しかし、かつて東京地裁は、憲法第9条が陸海空軍その他の戦力の保持を禁止している以上、米軍駐留も憲法違反だという判決を出しました。有名な1959年3月30日の東京地裁判決、いわゆる伊達判決です。

この判決に驚いたアメリカ政府は、当時のマッカーサー駐日大使が藤山愛一郎外相を呼び出して、東京高裁を飛ばして最高裁に跳躍上告させ、そのうえで田中耕太郎最高裁長官と密談して、伊達判決を覆して米軍駐留を認める判決を最高裁に出させました。マッカーサー大使がこのことを国務省に報告したことが、筆者（末浪）が米国立公文書館で入手したした米国政府の1959年11月6日付極秘書簡により明らかになりました。最高裁はこのアメリカとの秘密約束に、今も縛られているのです。

■最高裁判決…知事の決定は法律違反だという判断まではしていない

最高裁が辺野古に基地をつくることを認めたからといって、沖縄県民をはじめ国民はそれに縛られるものではありません。最高裁判決は、沖縄県知事が辺野古埋め立てを認めないのはけしからんと、防衛省が国土交通相に訴えたのを違法でないとしたものです。辺野古基地のための埋め立てを認めない沖縄県知事の主張をよく検討して、知事の決定は法律違反だという判断まではしていません。



11月に九州・沖縄で実施された日米共同演習で、負傷者をオスプレイに運ぶ訓練中の自衛隊員

■自然環境の破壊を知事が認められるはずがない

沖縄県が辺野古に米軍基地を作ってはならないとしている理由の一つは、絶滅危惧種のジュゴンが生息する大浦湾の自然を破壊してはいけないということです。

また大浦湾の軟弱地盤の一番深い所は、海面下 90 メートルまで続きます。海面下 30 メートルから、マヨネーズの様な層が厚さ 60 メートルで存在しているのです。防衛省は設計を変えて基地建設を強行するというのですが、こんなものを沖縄県知事が認められるはずがありません。防衛省はコンクリート製の巨大なケーソン（潜函）を投入して護岸を造る予定ですが、とんでもない自然環境の破壊です。

■「普天間も辺野古も」が米軍の要求

辺野古基地建設は、日本の平和と安全にかかわる重大な問題です。この基地ができれば、米軍がここからアジア太平洋の紛争に出撃する重要な拠点になります。それはかつてアジア諸国から、さらに世界を相手に戦争した日本が、また戦争にかかわることです。

政府は普天間基地が危険だからと言って、辺野古基地建設を始めましたが、まず危険な普天間基地を直ちに、条件をつけずに撤去しなければなりません。筆者（末浪）もこの基地を見てきましたが、民家が隣接する基地から米軍の戦闘機やヘリが爆音を轟かせて頻繁に離着陸しています。

最近では沖縄駐留米軍の幹部が、辺野古に新基地ができて、普天間基地使用を続ける意図を表明しています（沖縄タイムス 2023 年 11 月 9 日）。「普天間も辺野古も」が、米軍の要求です。

■辺野古の新基地建設は、日本国民の運命に関わる問題

辺野古基地ができれば、ここに自衛隊が進出することも、米国政府と軍部の当局者が言明しています。冒頭で述べたように、陸上自衛隊の水陸機動団が進出して、米軍と一体で作戦することになります。両軍による共同演習がすでに頻繁に行われています。辺野古基地ができれば、米軍と自衛隊の艦船が接岸し、米海兵隊員と「日本版海兵隊」ともいわれる陸自水陸機動団を載せて、海外の紛争地域に出撃することになります。これは、日本国民の生命と安全にかかわる問題です。無謀な辺野古新基地建設計画を絶対に許してはなりません。私たち日本国民の運命にかかわる問題として、辺野古基地建設に対する国民的批判を広げ、政府を包囲して建設計画を撤回させましょう。

（すえなみやすし）



美しい辺野古・大浦湾に軍事基地はいらない

浦島悦子の連続エッセイ 《南の島から》 No.47

「戦没者名名簿」を読む:番外編

ヘリ基地いらない二見以北十区の会共同代表/フリーライター



この連載のNo.44(9月)で、8月の台風避難の際に、沖縄戦時のマラリアで幼い子2人が亡くなった話を聞いたと書いた。うち1人は、マラリアではなく、戦前の1943年に三原区で蔓延した腸チフスで亡くなったことが後日判明したが、もう1人、私の隣家に住むF子さん(80代)の甥(姉の子ども)に当たる男の子(ヒデ坊と呼ばれていたという)については、是非とも「平和の礎」に追加刻銘したいという彼女の願いを実現すべく、私も最大限協力することにした。

実は、「ヒデ坊」のお父さん(Sさん)は1945年5月5日、沖縄島南部で戦死したことが戦没者名簿に記されている。なぜか他の人と違い生年月日欄が空白になっているため死没年齢がわからないが、若かったことは確かだ。

Fさんは当時4歳だったが、Sさんが出征前に母の元(妻の実家)に来て、身重の妻を案じ、実家での出産を「くれぐれもよろしく」と頼んでいたと、のちに母から聞いた。Fさんの姉は実家で無事出産したものの、終戦直後、爆発的に蔓延したマラリアで大事な息子を失ってしまった。「本当に可愛い子だったよ」とFさんが言うヒデ坊は、当時よちよち歩きだったというから、1歳の誕生日

を過ぎた頃だったろうか? 夫と子どもの2人ともを失った悲しみ・怒り・絶望はいかばかりだったかと胸が痛む。

沖縄県の「平和の礎」担当課に問い合わせたところ、追加刻銘の申告のためには、申告者による状況証明書及び戦没者の戸籍簿(除籍簿)が必要。但し、戦時焼失などで戸籍簿がない場合には位牌の写真や出身地確認書類等の提出でも可。年末までに申告し、刻銘対象となった場合には翌年の6月(23日が沖縄慰霊の日)に刻銘されるという。

まずはヒデ坊の戸籍を確認しようと、Fさんと一緒に名護市役所に出かけた。市役所本庁ではなく、1970年に合併して名護市となるまでは久志村役場、現在は名護市久志支所と呼ばれている役所だ。本庁と違って混雑していないので、事情を説明する私たちに、若い女性職員はとて丁寧に対応してくれた。

ヒデ坊を辿るために、まずはその父親であるSさんの戸籍(筆頭者はSさんの父親)を出してもらった。Sさんは次男で1925年1月生まれ。20歳の若さで戦死していることがわかった。しかし戸籍簿には、婚姻届もヒデ坊の出生届も記されていなかった。<次回に続く>

(うらしまえつこ)

《声の欄》



会報の感想・辺野古に関する思い・ご自分のこと等々、お気軽にあなたの声をお寄せ下さい。字数は250字以内(必ずあなたのお名前と連絡先をご記入下さい)。送り先は、最終ページ記載のメールアドレスか住所。毎月「最後の水曜日までに届いた原稿」については、翌月の会報に掲載できると思います。

■塩川・ダンプの運転手さんも

10月、辺野古へ土砂を搬出する沖縄県本部町の塩川港へ行ってきました。今回は、いつもの牛歩でダンプの動きを遅らせるという行動の他、塩川港の奥に陣取って、警備員が不正なダンプ誘導をしないように見張る役割もしました。港の出口の牛歩で、港内にぎっしりと閉じ込められたダンプを見るのは壮観でした。週末が近づくと運転手も疲れているので、「あんたら頑張ってくれたら、俺たちもゆっくり休めるから」なんて言うそうです。

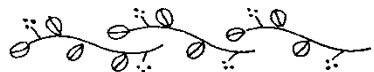
いつも3日間という短期間の参加ながら、地元で毎日行動する皆さんにとっても良くしてもらっています。それに気を良くして、また行きたいと思ってしまう。(八幡西区・moo)

■空飛ぶ棺桶

11月29日に、屋久島沖でオスプレイが墜落した。今現在、一人(24才)は死亡が確認され、残りの7人は行方不明だと言う。

オスプレイについてはこれまで「未亡人製造機」と呼んでいたが、西日本新聞には「空飛ぶ棺桶」とあった。過去10年間で少なくとも19人が世界中で犠牲になっている。

米兵の母親たちも、「息子を返せ」「オスプレイ飛ばすな」と言っているはずだ。なんだか、聞こえるはずのない声が聞こえる気がする。(小倉北区・子を持つ母)



■昼から水やり

パンジーやビオラの花を植えた鉢を4つ、ベランダに並べています。買って来た時は、花が2つ程しかついていませんでしたが、今は咲き乱れています。お天気の良い朝はいいのですが、寒い日などは水が冷たくないかと、午後から水やりをしています。(小倉北区・年金生活者)

《邊野古土砂北九州・今後の予定》

- 12月06日(水)…《会報発送作業》14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
- 12月09日(土)…《天久学習会》10時20分～ zoom
- 12月14日(木)…《築城基地フィールドワーク》8時50分・JR西小倉駅集合
※事前申し込みが必要です。
- 12月22日(金)…《小倉駅前街頭宣伝》16時～ ※今月は金曜です
- 12月25日(月)…《世話人会》10時～ 生涯学習総合センター・21学習室
- 1月10日(水)…《会報発送作業》14時～
- 1月27日(土)…《小倉駅前街頭宣伝》16時～



「邊野古土砂ストップ北九州」への入会は

年会費(個人 1000 円・団体 3000 円)です。090-4482-0043 大野保徳までお電話いただければ、会報をお送りします。

【邊野古土砂北九州の口座は】ゆうちょ銀行 記号番号 01700-7-166911

【他金融機関から振り込む場合は】ゆうちょ銀行 当座 一七九店 0166911

加入者名…「邊野古土砂ストップ北九州」

【財政・入会・退会に関するお問い合わせは】

090-4482-0043 大野保徳(財政担当)まで。

※領収書は、現金で会費をいただいた方のみお送りし、振り込みの方にはお送りしていません。ご了承下さい。



《邊野古土砂ストップ北九州》

メールアドレス…kanpanerura888k@gmail.com

〒803-0816 福岡県北九州市小倉北区金田 1-3-32-308 八記方

八記 080-1730-8895・南川 090-2853-7116・藤堂 090-6299-2608

2023 年 12 月 6 日発行